

「花のライブ」男と女の浄瑠璃 第2弾 文字蔵の常磐津弾き語り

平成 14年4月11日

三味線：常磐津文字蔵

上調子：常磐津紘寿郎



本名題 辰橋恋角文字
もどりばし
辰橋
もどりばし

千年前の京都の夜は漆黒の闇に包まれて、妖怪変化の解放区。

昔の恋は超スリリング。

月の光も透きとおる妖しい美女に魅せられた若武者剣士の掴んだ物は、

大妖怪の鬼女の腕。

色仕掛けの口説きはオペラのARIAさながら、最終章のスペクタクル場面は圧巻です。

春のひと夜、

文字蔵さんならではの浄瑠璃のARIAと冴えわたる撥さばきを

たっぷりとお楽しみ下さい。



あらすじ

若き武将「渡辺の綱」は、主君「源頼光」の命により、宝剣髭切丸を携えて恋文を届けての帰り道、一条の戻橋に鬼女が美少女に化けて待ち伏せているのが分かったため、生け捕って主君への土産にしようと、わざと声をかけ、家の近くまで送り届けようと申し出る。途中、小雨の止むのを待つうち、少女は美しい舞を見せながら、綱を妖術で眠らせ、隠れ家へ連れ帰り、食べてしまおうとするが、靈験のある髭切丸を持っている綱は術に屈せず、正体を見破ってしまう。美少女は忽ち本性の鬼女となって、綱の衿髪を掴んで空中に舞い上がると、綱は髭切丸で鬼女の腕を切り落としたため、鬼女の腕とともに北野天満宮の廻廊へ叩き付けられるように落ちてくる、鬼女は稲妻のような恐ろしい光を放ちながら、黒雲のかなたへ飛び去って行った。

後日、鬼女が綱の叔母に化けて、腕を取り戻しに来る物語が、お馴染みの『羅生門』である。



常磐津文字蔵さん

常磐津文字蔵さんは、常磐津の演奏家でもあり同時に、一中節の家元「十二世都一中」さんでもあります。歌舞伎や日本舞踊の地方として演奏する傍ら、10年前から古典音楽の振興と普及のためレクチュアコンサートを手がけ、その活動は多くの支持を得て、年々活発になっています。現在、ラジオの文化放送でレギュラー番組「都一中の我ら夢中人」（毎週日曜日午前6時30分から15分間）が放送され、好評を得ています。